

2025 年度 事業計画書

公益財団法人日本補助犬協会

今年度も「第 13 回もっと知って補助犬キャンペーン」を協力団体・関係者・行政・マスコミ等と連携して行い「誰一人取り残さない社会」に向かって”心のバリアフリー”を推進いたします。

自然災害や世界的紛争が続く中、厳しい経営状況が続くことを踏まえ、継続的なクラウドファンディング及び経営基盤安定化のためサポート会員獲得キャンペーンを継続し、安定した運営に更なる尽努力を重ねて参ります。

人材育成に関しては、良質な補助犬の育成と協会存続にとって大きなウェイトを占めることから、やりがいを持って継続して働ける環境を継続します。これまでも取り組んできた、訓練士が結婚をしても働き続けられる環境整備やベテラン指導員の仕事と介護の両立支援を継続します。

補助犬認定事業では、国家公安委員会及び厚生労働省の指定法人として、海外を含む他団体で育成された補助犬の認定を行い、既に認定している補助犬の状況把握と指導に尽力をし、育成事業では、代替犬を中心に貸与事業を行います。

更に、当協会ならではの高い稟性の犬を活かし「人と犬との汎用性のある関係」についての調査・研究を継続するとともに、ファシリテードッグ活動を、地元医療機関・福祉施設、教育機関等と連携し展開させます。

1 補助犬育成・貸与・認定事業

(1) 補助犬（及びその候補犬）の育成、認定及び貸与

身体障害者補助犬（以下「補助犬」という）の育成、認定を実施する。

【育成・認定目標】

当協会育成・認定 5 頭(盲導犬 2 頭、介助犬 1 頭、聴導犬 2 頭)、

他団体認定 2 頭

計 7 頭

(2) 補助犬貸与者（補助犬ユーザー）に対する飼育方法、使用方法等の相談、情報提供

補助犬貸与者並びに貸与希望者からの飼育方法、使用方法、その他受け入れ等に関する相談を、電話、メール、訪問等によりフォローするとともに、必要な情報提供を行う。

また、オンラインによる講義をユーザー及び補助犬希望者に対して開催する。

- | | |
|--------------------|--------------|
| ・ 定期報告書・健康診断書 | 年 1 回 4 月 |
| ・ ユーザー研修会 | 年 1 回 11 月 |
| ・ 電話、メールによる相談・情報提供 | 随時 |
| ・ 訪問フォローアップ | 随時 |
| ・ オンライン講義 | 随時 |

(3) 補助犬候補犬の導入並びに繁殖

補助犬候補犬および繁殖犬を導入し、育成・訓練および繁殖を行う。

・ 導入頭数 候補犬 4 頭

- ・ 繁殖犬 1 頭
- ・ 繁殖回数 1 回

※ 候補犬のうち盲導犬・介助犬及び繁殖犬や冷凍精子については、これまで通り海外の盲導犬協会から輸入する。

※ 聴導犬については動物愛護センター、支援法人等と協力して確保する。

(4) パピーの育成

パピーファミリーに対するしつけ教室の開催及び家庭訪問、相談業務を行い候補犬の稟性の向上に努める。

- ・ しつけ教室の開催 月 1 回
- ・ 家庭訪問 各ファミリーに対して 1 回以上
- ・ 電話・メールによる相談 随時

(5) 引退犬の生活支援

引退犬ファミリーに対して健康管理及び老犬介護相談、情報提供を行い、引退犬が安心して老後を送れる環境づくりにボランティアとともに取り組む。

- ・ 健康診断 年 1 回 4 月
- ・ 電話・メールによる相談 随時
- ・ 訪問・来所相談 随時
- ・ その他 医療費、介護用品支援

(6) 訓練士の養成

訓練士希望者を研修生として受入れ、慢性的に不足している補助犬訓練士を養成する。

- ・ 募集方法 ホームページ等で希望者を募集
- ・ 研修項目 障害等に関する知識、関係法規に関する知識、犬に関する知識、補助犬に関する知識など
- ・ 研修方法 訓練技術を各種セミナーや他協会との人材交流、外部講師による講義、日常業務の OJT によって習得させる。
- ・ 海外研修 成績優秀者には海外の補助犬育成・ファシリティードッグ育成団体へ派遣する。

(7) 補助犬に関する調査・情報収集

育成・認定・繁殖など補助犬に関する調査、情報収集を行う。

2 自立支援事業

(1) 医療ファシリティードッグ

湘南鎌倉総合病院、その他、関西・関東の医療機関

(2) 教育ファシリティードッグ

東京大学教育学部附属中等学校、他

(3) 企業ファシリティードッグ

株式会社大塚商会、株式会社ライオン事務器、他

(4) 自閉症児プログラム

3 普及啓発事業

(1) 「第13回もっと知って補助犬キャンペーン」の実施

- ・ 補助犬の認知度向上を図るため企業・団体の協力のもと、オンライン形式を中心に実施する。
- ・ 補助犬フォーラムを東京大学 大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センターと共同で開催する。

(2) 「補助犬受け入れセミナー」及び「心のバリアフリーセミナー」の開催

スーパー、ホテル、飲食店、病院、交通機関等、補助犬の受け入れが義務付けられている施設関係者等を対象とする「補助犬受け入れセミナー」及び「心のバリアフリーセミナー」をオンラインで開催する。

- ・ 実施回数 随時開催
- ・ 会場 実施企業の指定場所等及びオンライン
- ・ 講師等 障害当事者(補助犬ユーザー)が講師及びファシリテーターとして参画

(3) 「補助犬ガイド士養成講座」の開催・「検定」の実施

補助犬の受け入れ・接遇に関する専門知識を持った「補助犬ガイド士」(有資格者)を養成し、補助犬受け入れ事業者に配置するために設けた「補助犬ガイド士検定」を積極的に実施する。

(4) 会報の作成・配布

- ・ 会報 「につぼけん通信」
- 目 的 協会活動の報告、継続的寄付の維持
- 送 付 先 サポーター・募金箱設置協力店や協力企業・団体

(5) ホームページ・SNSの充実・活用

より多くの人に補助犬の情報を提供するとともに協会の活動のタイムリーな発信に努めるため、ホームページ、フェイスブックの充実をはかるとともにインスタグラムを利用し、情報発信に努める。

- ・ フェイスブック 啓発活動、訓練所の日常業務、犬の様子などをタイムリーにアップし、協会の多方面の活動を知ってもらえるよう情報発信を行う。
- ・ インスタグラム 補助犬の仕事以外に犬たちの日常にスポットをあて、普段の生活を知ってもらう事で補助犬に対する理解をより深めてもらえるよう情報発信を行う。

4 子供の情操教育活動

教育機関や地域主催イベントなどで、補助犬介在授業やセミナーの開催

主に東京都及び神奈川県内の小・中学校を対象に補助犬の理解と心のバリアフリーの推進を目的とした「ほじょ犬セミナー」を開催する。

東日本大震災被災地の小・中学校を中心に、他者に対する労り教育を、ユーザーと補助犬の関係性を通して実践する。

- ・ 内 容 東北地方の介助犬ユーザー、ボランティアが中心となりスタッフとともに学校を訪問する。
- ・ 実施回数 8ヶ所

5 補助犬介在活動の拡充

補助犬に向く犬の稟性を活かし「人と犬との汎用性のある関係」について調査・研究に取り組む。

6 その他

(1) ITネットワークの活用

ITネットワークを駆使し、会員、支援企業・団体等にセミナー・検定等の情報を定期的に発信し、サポートの継続及び新たな支援者の開拓を行い、財政基盤の安定に努める。

(2)人材育成

同行援護従事者養成講座の受講、愛玩動物飼養管理士資格取得、外部講師による講義を月1回受講するほか、日々のOJTにより職員の質の向上に努める。このほか手話講座を協会内で月2回開催する。

(3)発災時の緊急避難等の対応

横浜市災害時動物救援連絡会の委員を務める団体として発災時の連絡体制や動物救援本部設置等について定める「横浜市災害時動物救援本部」の運営マニュアルに基づき行動する。

(4)「補助犬チャリティー商品の制作・販売」等商品の販売

収益事業として、ボランティアの協力を得て補助犬チャリティー商品を制作するとともに、オンライン等で販売する。

(5)他団体との連携

- ・「人と動物との共生推進よこはま協議会」委員として「横浜市獣医師会」及び他の動物関係事業者と連携し、平成31年度横浜市動物愛護センター管理業務計画に基づいた活動に取り組む。
- ・「全国補助犬ユーザー連合会」「全国介助犬ユーザー連絡会」「全国聴導犬ユーザー連絡会」と連携してシンポジウム等を開催する。
- ・「日本盲人社会福祉施設協議会」盲導犬部会の部会員として、盲導犬の育成に取り組む。
- ・「国際盲導犬連盟 (INTERNATIONAL GUIDE DOG FEDERATION)」の会員として、加盟団体との交流を基に活動する。
- ・「国際補助犬連盟 (ADI: (Assistance Dogs INTERNATIONAL))」への加盟を検討する。
- ・東京大学 大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センターと共同で、障害の社会モデル実装に関する調査研究に取り組む
- ・医療法人徳洲会湘南鎌倉総合病院と連携協定を結び、補助犬介在療法・教育・教育研究を行う。

(6)クラウドファンディングの定期的実施

- ・不安定な財政基盤下でも一定の収入が見込めるように、クラウドファンディングを年数回、定期的に実施する。